
牛骨の賢者の在り方

や～ま～だ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

牛骨の賢者の在り方

【Nコード】

N0222P

【作者名】

やゝまゝだ

【あらすじ】

モレクさんが異世界で生きていくお話

00（前書き）

この作品には ちょいアンチ要素やキャラ崩壊などが含まれますので、そういったものが苦手な人は読まないことをお勧めします

炎髪灼眼の討ち手、マティルダ・サントメールによって吹き飛ばされて
ラビリントス
いる自分の身体を見ながら

トーテン・グロッケ
 「とむらいの鐘」九垓天秤が一角”大擁炉”モレクは想う

自分が主と認めた者を・・・・・・・・

自分の自在法「ラビリントス」を難攻不落だと信じ切っている仲間を

(我が主・・・・・・・・アシズ様、『壮举』達成されることを願
 ってます・・・・・・・・)

どうかご無事で、チェルノ・・・)

激しい爆風と共に 牛骨の賢者は黄色の炎となり 世界から消えた

00 (後書き)

処女作です 拙い文章です (泣)

見渡す限り真っ白な世界の中で ポツンと牛骨の賢者は浮かんでいた

（ここはどこなのでしょう？ 紅世でもありませんし・・・人間たちの言う『あの世』というものでしょうか？）

モレクはしばらく一人で考えていると、突然

「ちやお～～～す！」

と立派な髭を蓄えた老人が目の前に現れた

「あ、あなたは い、いったい何者ですかっ！！」

モレクは文字どおり肉のない骨だけの口をカタカタと揺らしながら
問いかけた

「ワシ？　ワシは神で~~~~~す♪　とりあえずお主が吹き飛ばされていたから

この空間に連れてきてみました~~~~♪」

（な、なんですか　この老人は！！）

得体のしれない老人（神）への恐怖を感じながらも、すこしでも情報を得ようとモレクは神を名乗る老人にたずねた。

「ここは、どこなのですか？　あなたは本当に神という存在ですか？　もし神というなら私が死んだ後

『壮拳』がどうなったかわかりますかっ！？　チェルノボーグ殿はご無事なのですかっ！！！？」

次第につかみかからんが勢いになっていくモレクにあせりながらも神はひとつひとつに答えていった

「す、すこしは落ち着け！！

まず、まずここは世界の狭間　ワシが創った空間じゃ　次にワシはモチロン神じゃ！

最後に「トーテン・クロツケとむらいの鐘」の悲願 『壮拳』は炎髪灼眼の討ち手によ
って阻まれ チェルノボーグは討滅された」

それを聞いたとたん ガクンッとモレクは膝から崩れ落ちた。

「私の命も、同胞たちの尊い犠牲もすべて水の泡・・・ですか
私は！！愛する女性一人も守れなかったのですかっ！！」

そう叫ぶとモレクの眼球もない目からとめどない涙があふれた

神はその様子を見ながら 泣きやむのを待ちやさしく問いかけた

「モレクよ、お主は人間を、フレイムヘイズを憎んでおるのか？」

「い、いいえ。私たちも彼らの大切なものを奪ってきました。
いまさら自分だけが憎むわけには・・・いけませんよ」

憂いを帯びた目で過去を思い起こしながらも やさしき賢者は神の

問いに答えた。

「ふむ。やはりお主はワシが見込んだとうりの者じゃった。
よってお主に第二の生をプレゼントしよう　それじゃアディオ
クス！」

そう神が言った瞬間　モレクの前に孔が現れ　モレクを吸い込んだ

「えっ、え~~~~~~~~~!!!!!!」

モレクの絶叫と共に

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0222p/>

牛骨の賢者の在り方

2010年12月9日17時05分発行